

「初春の紀伊半島一周の旅」

豊橋より潮岬を経由し大阪を目指す

H29/3/4～3/9

[豊橋より伊良湖岬へ。フェリーで鳥羽に渡り潮岬経由で大阪を目指す旅の記録]



雨上がりの本州最南端・潮岬。島国の日本人はなぜか端っこが好き？

豊橋 → 大阪へのルート （走行距離 500.3km）

▶ 一日目 [豊橋 → 伊良湖岬/45.1km]

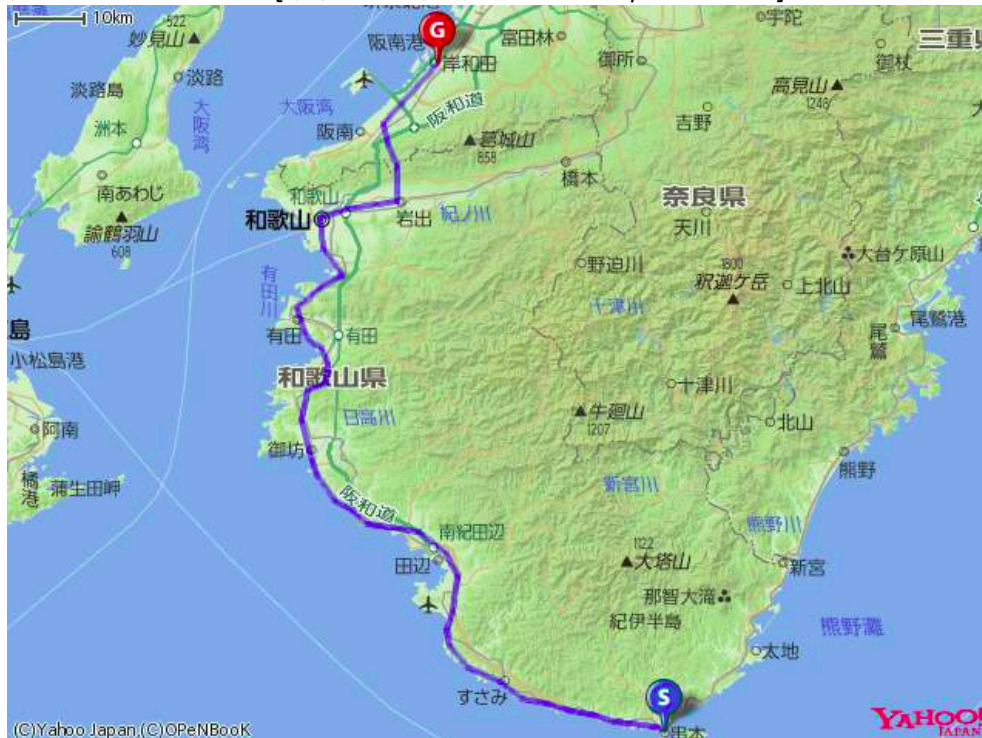


▶ 一日目～三日目 [鳥羽 → 潮岬 → 串本/230.48km]



上のグラフの中央部、標高の一番高い地点(417m)は国道 42 号線(尾鷲～熊野間/二日目)の大又トンネル付近。

▶ 四日目～五日目 [串本 → 和歌山 → 大阪/224.72km]



前半比較的フラットな道が続きました。125km 地点(一つ目の山)は紀伊由良～湯浅間、190km 地点(二つ目の山)は岩出～泉南間(和歌山と大阪の県境)の峠道。有田～海南間の国道 42 号は、道幅が狭くトンネルも多く、おまけにトラックも多い！恐怖の区間でした。海南市に着いた時には、本当にほっとしました。

第一日目 3/4 (豊橋/愛知～伊良湖岬～(船)～鳥羽～伊勢/三重)

- ・ルート：豊橋 ～ (県道388号、県道2号、国道259号) ～ 伊良湖岬 ～ (フェリー/55分) ～ 鳥羽港 ～ (国道42号、県道102号) ～ 伊勢
- ・走行距離：67.54km 平均速度：21.2km/h 最高速度：36.4km/h 走行時間：3時間11分
- ・天気：☀



[豊橋→伊良湖岬]



[鳥羽港→伊勢]

今年6月に予定している日本縦断最終ステージ(第四ステージ/函館→宗谷岬)を控え、テストランで温暖な紀伊半島を周遊することにしました。長距離サイクリングは、去年の9月に走った土浦～いわき以来、実に約5カ月ぶりでした。二年前に痛めたアキレス腱、以前ランニング中に痛めた右膝など不安材料だらけの出発となりました。練習不足もあり、果たして500km、走破出来るのか自分でもあまり自信がありませんでした。

今回のスタート地点は、豊橋としました。昨年3月に走破した東京～京都間で通過している都市であり、渥美半島の伊良湖岬より対岸の鳥羽港までフェリーが就航しています。東海道線を使い東京方面からのアクセスのしやすさもありました。今回、自宅より豊橋までオーソドックスな電車での輸行をして移動しました。小田原より東海道線に揺られ、途中熱海、静岡、浜松で乗り換えることになりました。あまり電車には乗る機会がないので、良い機会と思い鈍行での移動となりましたが、思いのほか乗り換えも多く時間が掛かりました。

- ・小田原(10:05発)→熱海(10:29着/10:35発)→静岡(11:50着/12:03発)
→浜松(13:15着/13:20発)→豊橋(13:55着)

午前8:15に自宅で軽い朝食を取り、最寄り駅まで自家用車に輸行袋を載せ送ってもらい、この旅がスタートしました。豊橋駅に着くまで、全く何も口にしていませんでした。乗り換えの連続で、時間がなく、熱海発島田行きの東海道線はたった三両編成でした。輸行袋での乗車で他の乗客に迷惑がかからないように、先頭車両に乗車していました。島田

行きの列車は、ホームの遥か後方に停車していました。走る、走る！乗り換え時間は、6分。他の乗客も走っていました。重い輪行袋を担ぎ、たどり着いた先頭車両は、東京の通勤電車並みの混雑。とても輪行袋を置けるスペースはなさそう。仕方なく、最後尾の車両へ何とか飛び乗り、少し迷惑な状態での乗車となりました。幸い、前に座っていた女性が二駅目で降車し、席を譲ってくれました。静岡駅に着く頃には、混雑も緩和され立っている人もまばらな状態になっていました。幸運にも小田原から豊橋まで、席が取れず立っていたのは、熱海からの二駅だけでした。

豊橋には午後2時前に定刻通り到着。自転車を組み立て、出発を午後2時半と想定し、約45kmの道のりを走破し、伊良湖岬16:30のフェリーに滑り込み乗船と考えていました。何とか予定通り出発。渥美半島の国道259号は、フラットだと思っていたものの、アップダウンが結構あり、おまけに海沿いからか強風が吹いていました。県道2号線で途中少し道に迷い、結局途中から国道259号線に出ることに。

アップダウンと強風、おまけに久しぶりのライディングでペースが上がらず、空腹でガス欠に！ちょうどその時、すき屋がありました！この時点で、16:30発のフェリー乗船は諦めました。10分程の遅めの昼食休憩後、伊良湖岬を目指し、結局到着したのは16:50でした。次のフェリーは最終便の17:40。時間があれば輪行袋に袋詰めして乗船し、大人一人分の運賃にしたいところですが、その気力もなく自転車の運賃も払うことにしました。鳥羽港着は18:35、すでにナイトラン決定でした。宿まで急がねば…。

フェリーのチケット購入時、チケット売り場のおじさん曰く、二輪も台数制限があるので、すぐに発着に並んで下さいと。休む暇もない～。フェリー乗場に行くとなすでに大型のバイクが停まっていた。結局、自転車は私の一台、バイクも一台でした。

乗船したフェリーの窓からは夕日が…。対岸の鳥羽港の到着予定時刻は、18:35。思いもよらず、ナイトランとなってしまいました。長い自転車人生の中で、本格的なナイトランは殆どしたことがありません。鳥羽港に着くと、もうすでに日は落ち、真っ暗でした。国道42号線は鳥羽港を出ると街灯もまばらになってきました。二見浦の夫婦岩など見るすべも無く、漆黒の国道をひた走りました。その距離おおよそ12kmほどでしたが、伊勢市内に入りホテルの場所を探すのに手間取りました。同じところを二度通過し、何度も道を尋ねることになりました。地元の人の親切が身にしみました。いつもなら順調に目的地に着けるような感じでした。が、真っ暗闇と疲労からか判断能力も自ずと低下していました。ようやくたどり着いた伊勢市のホテルにチェックインしたのは20:05でした。

ロードバイクはフロント近くのホテル内部のスペースに置かせてもらいました。最近、ビジネスホテルなどでもサイクリストが多いのか、結構慣れた感じで室内保管してくれるところが多く、助かります。

チェックインし、部屋に入るや否や、ホテルの前のコンビニに夕食の弁当を買い出しに行きました。自転車旅をしているとユースなどでも夕食を取ることがあまりなくなってきました。130km超のコースだと夕食がぎりぎりとなってしまう可能性があり、夕食を頼んでいない方が気楽に道中を走れるからです。ビールを飲みながら、テレビを観ているとなぜかほっとしました。

大浴場で汗を流し、明日の峠越えに備え、早めに床につきました。すでに脚はパンパン、筋肉痛でした…。明日は熊野まで難コースが待ち構えていました。



今回のスタートは豊橋駅。ここから渥美半島の突端の伊良湖岬まで走り、フェリーで鳥羽へ。鳥羽港に着いた頃には、日もとっぷりと暮れ、伊勢まで夜間走行に。あ～恐怖！



伊良湖岬手前にて。渥美半島はもうすぐそこまで春が…。16:30のフェリーを諦め、最終便に乗ることに。



伊勢湾フェリー乗場にて。二輪は私の他には大型バイクの二台だけでした。たった55分の短い船旅でした。



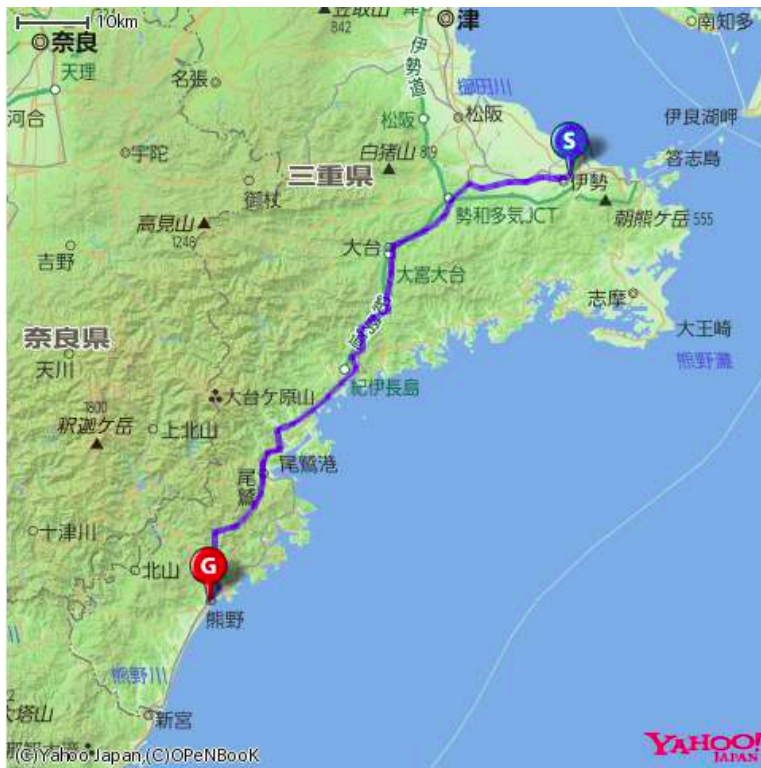
ん〜、思ったより大きなフェリー！乗客もまばら…。



伊良湖岬出航直前の夕日。停泊していた海保の船とともに。

第二日目 3/5 (伊勢/三重～熊野/三重)

- ・ルート：伊勢 ～ (県道102号、県道37号、県道13号) ～ 仁田 ～ (国道42号) ～ 熊野
- ・走行距離：126.11km 平均速度：n/a(*) 最高速度：n/a(*) 走行時間：n/a(*) (*)サイコン誤作動の為
- ・天気：☀



この日は紀勢本線 佐奈駅近くの仁田交差点よりいくつもの峠越えの待ち構える国道42号を南下する難コース。午前6時には起床(旅に出ると疲れていても早起きとなる)し、ホテルの朝食を食べました。昨今のビジネスホテルは、バイキング形式の朝食が多い中、宿泊したホテルは賄いの女性が運んでくる和食でした。久しぶりに旅に出て落ち着いて朝食が食べられました。

ロードバイクの空気圧をチェック、バックなどを装着し午前8時前に熊野に向けペダルを漕ぎ始めました。3月の伊勢はまだ少し肌寒い感じがしました。伊勢神宮外宮前に立ち寄り記念撮影を。近くには有名な「赤福(外宮前特設店)」の店舗がありました。目指す国道42号へは県道13号を走りましたが、車の往来も少なく、思っていた以上に走り易かったです。

問題は国道42号に入ってからでした。取り敢えず、紀伊長島を目指すことにしました。余談ですが、ロングライドの走行時、いつも30～40km程の先の都市を目指し走っています。いきなり100kmというと心が折れそうになる時があります。小刻みに街を刻んで、その日の最終目的地に着く心構えで走るのが常です。

国道42号はだんだん山道となり交通量もぐっと減っていききました。紀勢自動車道と平行しているためか、車は殆ど通りませんでした。道の駅『奥伊勢おおだい』を過ぎ、紀伊長島の手前には荷坂峠(標高242m)が待ち構えていました。対向車も殆どない峠をもくも

くとペダルを漕ぎました。このころから、脚に違和感を覚えてきました。いや～な予感がしました。二年前の九州では、アキレス腱周囲炎を発症し、苦しいペダリングを強いられました。それでも何とか荷坂峠を越え、紀伊長島にたどり着きました。

紀伊長島からは、ようやく山間部を離れ海沿いの道となりました。それもつかの間、尾鷲市を過ぎると再び山間部へ。難所・矢ノ川(やのこ)峠(本来の峠は旧国道42号にある。)が待ち構えていました。この峠、キツかった～。矢ノ川峠途中、左太もも内側が攣り、仕方なく、少しだけ押して歩きました。歩いては乗り、歩いては乗っての繰り返しでした。情けない～。国道の左には、清流が流れていました。

足が攣りながらも矢の川峠を越えると、長いダウンヒルが待ち構えていました。ついオーバースピード気味になり、スピードを抑えて慎重に下って行きました。『熊野市』に入ったのは、15時半でした。足が攣り、ペースが上がらなかった為、予定より一時間程遅れていました。

熊野市街の手前では、またしても佐田坂(標高170m)が待ち構えていました。既に足はパンパン、途中一度小休止をして何とか上りきりました。ようやく国道は海岸線に出て、熊野市街も目と鼻の先の木本トンネルは、無情にも自転車通行禁止でした。あ～、ついてない!と思いつつ、気を取り直して、歩道橋を渡った迂回路へ。長いトンネルを抜け走ると、偶然にも熊野市駅の目の前に出ました。こぞんまりとした駅前には、タクシーの運ちゃんが暇そうにタバコを吹かしていました。

結局、仁田から熊野市までアップダウンの連続でした。何とか意地を見せ、16:40にホテルに到着。本当に疲れた一日でした。ビジネスホテルは金額相応のかなり質素な宿。ただ、おかみさんは本当にいい人でした。ロードバイクもロビー横に駐輪させてもらえました。自転車乗りには十分な宿でした。

部屋に荷物を置いて早速近くのスーパーに買い出しに行きました。「明日は午前中雨予報。どうしよう…。」とすでに考えていました。



伊勢市出発の朝！いよいよ紀伊半島一周のスタート！ホテル前にて。



伊勢神宮外宮前にて。近くには「赤福」の特設店舗がありました。



道路を挟んだ奥が伊勢神宮外宮。木々に囲まれ厳かな雰囲気…。



県道13号よりようやく国道42号に合流。この日の目的地は熊野市。取り敢えず紀伊長島を目指すことに。仁田交差点にて。



国道42号線の荷坂峠にて。交通量は極端に少なめ。



国道 42 号沿いには、時より「熊野古道」の案内表示板が。



矢の川峠の手前。既に足はパンパン、左太腿内側が攣り始めていて、大変なことに。



矢の川峠のアプローチ。なかなか上りが終わらない～。



ついに矢の川峠に。この時をずっと待っていた～。疲労困憊！実は本来の峠は別の場所にあります。



ようやくこの日の目的地・熊野市に到着。中心部まではまだまだ先です～。



熊野市街地の直前のトンネルは無情にも自転車通行禁止！またしても、迂回！歩道橋を渡りトンネル右にある測道へ。



アップダウンの連続で心身ともにボロボロの状態で、ようやく熊野市駅に到着！長～い一日が終わりました。

第三日目: 3 / 6 (熊野/三重～潮岬～串本/和歌山)

- ・ルート: 熊野 ～ (国道42号) ～ 串本 ～ (県道41号) ～ 潮岬 ～ (県道41号) ～ 串本
- ・走行距離: 81.93km 平均速度: 21.2km/h 最高速度: 40.6km/h 走行時間: 3時間50分
- ・天気: 



前日の予報通り、起床後窓の外を見ると'しとしと'雨が降っていました。降りもそんなに強くなく、ライディングには影響なさそうでした。テレビの天気予報では、午前中は雨、午後は曇の予報でした。こんな予報の時には、出発時間をずらしなるべく雨天走行の時間を少なくすることにしています。走行距離も予定より短めにして潮岬手前の串本までとしました。雨天走行は何一ついいことはありません。短くした距離は、天候の良いコンディションのいい日に取り戻す作戦でした…。(が、翌日はまさかの晴天の強風でした。)

熊野からの国道42号は、昨日とは打って変わってフラットな道が続きました。交通量はそこそこですが、和歌山に入ってから、ドライバーのマナーが良く助かります。減速して追い越し、十分な側方間隔で過ぎ去ってくれました。

9:30、ゴアテックス製の上下セパレートの雨具とブーツカバーを着用し、ホテルを後にしました。ビジネスホテルの朝食は、厚切りのトースト一枚とサラダなどの軽定食でした。自転車乗りにはやや足りないボリュームでした。値段相応なので仕方ない？

小雨の中の走行であっても、昨日のようなアップダウンもなく平坦な海岸線を南下していきました。本当に嘘のような快適な国道42号でした。伊勢市で泊まったホテルのフロントのおじさんは、冗談まじりで国道42号線は、42(死に) 国道だよ! と言っていたの

を思い出しました。それだけ、伊勢より熊野までは難所でした。自転車で伊勢市から熊野市まで走破するとなると、驚くよりも呆れていました。

取り敢えず、和歌山県新宮市を目指して走り始めました。熊野灘を左手に快適な道が続きました。新宮市あたりで、上がりかけた雨も、那智勝浦では少し雨足が強くなって参りました。那智勝浦では、LAWSONでランチ休憩することにしました。イートインコーナーで弁当を食べ、45分程の休憩の後、再スタートしました。雨は止みそうで止まない、そんな状況でした。雨具は脱げず、串本まで着る羽目になりました。気温が低めなので、雨具を着用していても、汗ばむ程度で、汗びっしょりになることはありませんでした。

この日は走行距離も短めに設定していたので、このまま一気に串本まで走りました。左手に景勝地 橋杭岩(*)が見えてきました。道の駅『くしもと橋杭岩』で自転車を止め、オレンジソフトクリームを頬張りながら奇岩を見ていました。

(*)橋杭岩（はしぐいいわ）は、和歌山県東牟婁郡串本町にある奇岩群。同町の大字鬪野川（くじのかわ）小字橋杭の海岸から紀伊大島方面へ大小約40の岩が南西一列におよそ850メートルもの長きにわたって連続してそそり立っている。直線上に岩が立ち並ぶ姿が橋の杭のように見えることから橋杭岩と呼ばれている。また干潮時には岩の列中ほどに附属する弁天島まで歩いて渡ることができる。吉野熊野国立公園に属しており、国の名勝や国の天然記念物の指定も受け観光名所となっている。また橋杭岩を通して見る朝日はとても美しいと評判で日本の朝日百選の認定も受けている。(参照：ウィキペディア)

道の駅『くしもと橋杭岩』の真向かいが今宵の宿でした。まだ、14:00過ぎなので、潮岬へ行くことにしました。しかし、激坂が待ち構えていました。距離も思っていた以上で、串本から往復20km以上ありました！結局、ここ串本まで小雨が降り続けていました。

本州最南端 潮岬の眼前には、雄大な太平洋が広がっていました！

夕食は、民宿の下食堂へ。マグロ丼定食を頂きました。美味でした～。



宿のすぐ近くの獅子岩にて。無情にもこの旅三日目にして雨が！熊野市にて。



和歌山県新宮市に入った！和歌山県は人生初の都道府県です！このまま国道42号を那智勝浦方面へ直進！雨もこの時には殆ど上がっていたが…



三重と和歌山の県境 熊野大橋。山には薄らと霧らしきものが立ちこめている。



この日の目的地、「橋杭岩」に到着。マグマが隆起して出来たとか…。宿はこの「橋杭岩」の真向かいの民宿です！



時間があったので、翌日の予定を繰り上げて本州最南端の潮岬へ。往復 20km 以上ありました！しかも、岬へはアップダウンの連続でした～。



潮岬より太平洋を望む。遠くには漁船らしき姿が。

第四日目： 3 / 7 （串本/和歌山～有田/和歌山）

- ・ルート：串本 ～（国道42号）～ 有田郡湯浅町
- ・走行距離：139.37km 平均速度：18.2km/h 最高速度：42.1km/h 走行時間：7時間38分
- ・天気：☀



6時起床、6:54出発！素泊まりなので、朝食は途中のコンビニで取るつもりでした。有田までの走行距離も140km、串本には強風注意報発令中！でした。そんな悪条件の中で、早めの出発となりました。晴れているものの、まだ早朝のためか結構な寒さでした。

民宿の窓からは橋杭岩より昇る朝日が。朝日を見るのは富士山以来。やっぱりいつ見てもいいものです～。

串本から走り始めると、海岸線では風にかなり煽られる！先が思いやられました。一時間程走った江住駅近くのLAWSONで、朝食を取ることにしました。このコンビニ、太平洋に面していて景色は最高。おまけに外にはテーブルが備え付けで置かれていました。この日は、強風のためとても外で朝食とはいきませんでした。驚いたことに、コンビニで買ったペットボトル（中身が入ったままのもの）も地面に置いた途端風で飛ばされてしまいました！

串本からは延々と海岸線を走ることになりました。時折、防風林や山間部に入ると風が少し和らぎ、また海岸線に出ると強風に煽られることが、何度も続きました。一度などは、あまりの強風で、自転車ごと押し倒されそうになりました。押し歩きをする始末！雨もいやだが、自転車旅にとって風も大敵。山陰の山口～島根の日本海側のルートを思い出しました。

12時、ようやく田辺市に到着。この旅初めてのファミレスランチ休憩。一時間の休憩後も風が収まる気配全くなし！田辺市では、田辺バイパスが自転車通行禁止！市街地へ迂回させられることに。 あ～、疲れる！

あまりに体力を消耗したので、有田の手前で小休止。

この日の目的地、有田オレンジユースホテルに着いたのは17:30頃でした。ユースに宿泊するのは二年ぶりでした。（2015年7月の出雲～新潟間で、兵庫県 もろよせYH、京都府 天橋立YHに宿泊）。素泊まりとなり、街のスーパーでおにぎりやパンなどを買い出しYHに向かいました。ユースは、海の近くの漁村のような地域に立地していました。迷路のような場所でした。店舗も無く事前にスーパーでの買い出しをしてくるように、YHのお母さんに告げられていました。

この日の宿泊客は私の他に男性二名でした。沖縄から空路関空に入り、二時間かけて夜9時過ぎに到着するとペアレントのお母さんが話してくれました。一階の居間で二時間程、お母さんと談笑し、明日も早いので失礼することにしました。昔のユースの話で大いに盛り上がりました！配慮してくれたのか、三人部屋を一人で使わせて頂きました。これでぐっすり眠ることができました！

この日も、強風吹きすさぶ長～い一日でした。



橋杭岩に昇る朝日！幻想的！民宿の窓からの風景です～。旅してるな～。



お世話になった民宿「はし杭」。下はうどん、そばの食堂です。



夕食は、下の食堂でマグロ丼定食を頂きました。美味～。



国道42号、江住駅近くのコンビニにて。外には備え付けのベンチとテーブルが置かれ、夏には賑わいそうな。この日は強風と寒さでとても外で休憩なんぞできない！



串本よりしばらくはこんな道が続きます！絶景！しかし、海からの強風で自転車ごと押し倒されそうに。仕方なく、自転車を押し歩きました。



強風に苦戦しながらもようやく田辺市に。この直後、ファミレス休憩し身体を休めました。空は快晴！



この日の宿は、二年ぶりのユース泊。お母さん、いい人だったな～。夜、わざわざ畑からオレンジを摘んできて振る舞ってくれました。色々な種類がありました。ユースの良さを再認識した一夜でした。

第五日目： 3 / 8 （有田/和歌山～岸和田/大阪）

- ・ルート：有田 ～（国道42号）～ 和歌山市内 ～（国道24号、県道63号）～（国道26号）～ 岸和田
- ・走行距離：85.35km 平均速度：19.1km/h 最高速度：39.3km/h 走行時間：4時間28分
- ・天気：☀



この日は紀伊半島周遊の最終日。有田より和歌山市内経由で大阪まで85km程の道のりでした。7:45、お世話になった有田オレンジユースに別れを告げ、出発！天気予報では最高気温7℃、風はそれほどでもないような…。昨日のことがあり、風速が気になりました。

有田から海南までの国道42号は、道幅が狭く、トンネルの連続。大阪方面に向かう？トラックが飛ばしていました！トンネルの道幅も当然のごとく狭く、路肩ギリギリに走ってもトラックが横を通過すると怖い～。路肩の路面状況も悪く、パンクしやしないかとヒヤヒヤしながらの走行となりました。

逃げるように着いた海南市のファミレスで朝食を取ることにしました。やっぱり朝はゆっくりコーヒーが飲みたい～。大阪まで距離的にも短いので、久しぶりにのんびり朝食が取れました。

海南から和歌山市内までは、片側二車線の道路が続き、さすが大都会！トラックがさらに増え、ヒヤヒヤしながら走るようになりました。大都会を自転車で走るのは、やっぱり好きになれません。二年前の福岡県久留米市では、トラックにクラクション鳴らされながら、怖い思いをしながら走行したのを思い出しました。

和歌山市内に入ると。遠くに和歌山城が見えてきました。さすが、徳川御三家の紀州藩紀州徳川家の居城。遠目に見てもかなり大きい！ここで、和歌山城を写真に収めるべきでした。城に近づくと、木が邪魔になり、被写体が見えづらくなり…。当然ですが、大きな建造物は、近くで撮ってもダメですよ～。和歌山城には中国人観光客のバスが停まっていた。

和歌山市内より、国道42号と別れ、国道26号へ。の筈でしたが、いきなり自転車通行禁止のバイパスになり、気づくと国道24号へ。そのまま国道24号を直進し、備前より県道63号に入り大阪に向かうことにしました。途中、道の駅『根来さくらの里』で小休止し、その先で大阪府泉南市に入りました。県道63号は、抜け道なのか大型トラックがひっきりなしに走っていました。またしても、恐怖～。おまけにこの県境、名もない峠道でした。結構な距離の上りが続きました。

県道63号よりようやく国道26号に入り、ファミレスでの昼食後、岸和田駅を目指しました。岸和田駅到着は、午後4時を回っていました。のんびりしていたせいか、85km程の距離で予想以上の時間を使っていました。

岸和田駅でいつものように記念写真を撮り、これまたいつものようにヤマト運輸の営業所に行き、サイクリングヤマト便でロードバイクの送付手配をしました。事務所の女性は、サイクリングヤマト便の扱いが初めてだったようで、少し手続きに手間取りました。そんな時のために、『ヤマト運輸のコールセンターに電話して手続き方法を聞いて下さい』と私の方より提案することにしています。

無事、ロードバイクの送付手配をした後、南海特急サザン難波行きに乗車し、ひとまず大阪駅に行きました。翌朝、大阪駅JR高速バスターミナルより東京行きのバスに乗車するにあたって、乗車場所の確認をするためでした。東京行きのバスの発車時刻は、8:40でした。宿泊する新大阪ユースは、新大阪駅の近くありました。土地勘がなく、乗り遅れては困るので、散歩がてら立ち寄りました。

宿泊した新大阪ユースは、新大阪駅から徒歩5分程のところにあり、とてもアクセスの良い場所でした。大浴場も完備し、なかなか居心地の良い宿でした。8人部屋には、私を含め日本人三名が泊っていました。土地柄か外国からのホステラーも数名見かけました。その昔、ヨーロッパなどを放浪していた時、ユースに泊まっていたのを思い出しました。

こうして走行距離500kmの長いようで短い旅が終わりました。久しぶりの長距離ライドでしたので、正直走りきれるか不安でしたが、自転車に股がると何とかなる？と思いながら走っていました。この時期、紀伊半島は思っていた程、温暖な気候ではありませんでした。が、3月の山陰に比べれば、我慢出来ない寒さの日も無く、寒さに弱い私にとっては幸いでした。

今回は、今年6月に控える日本縦断最終ステージ(第四ステージ/函館～宗谷岬)のテストランの意味合いもありました。体力面での課題、装備の課題、自転車のパーツ交換の必要性などを見出せ、とても有意義な紀伊半島一周となりました。

でも、『あ~~、しんどかった』というのが正直な感想です。



有田オレンジユースから少し走ったところで。夏は近くに檜原海水浴場もあります。



国道42号は海岸線ギリギリを走ります！それにしても風強し！有田市にて。



国道42号より和歌山城を。



右折すれば大阪への国道26号。右折して、すぐに紀ノ川に掛かる陸橋があり自転車通行禁止の看板が。国道26号へ迂回路を探しているはずが、国道24号へ？そのまま突き進め！とばかりに「備前」まで走り県道63号で岸和田へ。（改めて地図を見ると、正解のルートは上流に掛かる北島橋を渡って国道26号に合流するみたいです。）



九州でもお世話になった「Joyfull」でランチ休憩。懐かし〜い。



「大阪府」の岸和田に入った！



南海岸和田駅。旅の終わりに。『岸和田 だんじり祭り』で有名な岸和田か…。



この日の宿は新大阪駅近くの新大阪ユースホテル。徒歩5分の好立地。大浴場もあり、勧めです。ビジネスマンの姿もちらほらと。それにしてもこの日の晩は寒かった～。



翌日、大阪より高速バスで帰京しました。都心まで8時間程の道中でした。4,700円也。二階建てのバスはイギリスの高速バス以来かな…。

▷ 豊橋→大阪間を走って… & 今後

▶ ルートについて：昨年3月の東京→京都間走破で経由した豊橋を今回のスタート地点としました。豊橋までは、東海道線の鈍行で小田原より三度の乗り換えの末ようやくたどり着きました。豊橋から渥美半島の伊良湖岬までは、主に国道259号線を。鳥羽港より伊勢、熊野、串本、有田そして和歌山市内までは、国道42号線をひたすら走りました。特に、国道42号線の仁田より熊野へのルートは、峠の連続で大変でした。しかし、熊野から有田までの国道42号線は、交通量も少なめでとても走り易かったです。有田から海南までは、道幅が狭い区間やトンネルが多く、神経を使いました。和歌山市内より当初国道26号線を走り岸和田を目指すはずでしたが、走り始めてすぐにバイパスとなり迂回することになりました。しかし、いつのまにか国道24号線へ誘導され？そのまま備前より県道63号線で大阪府に入ることになりました。

主に、国道42号を時計回りに走っていらしたので、分かりづらい場所は殆どありませんでした。初日の伊勢市内ではホテルが分からず泣きそうでした。最終便のフェリー乗船の為夜間走行を強いられ、二回地元の人に道を尋ねました。また、和歌山市内では国道26号で迂回させられ少し道に迷いました。それ以外はおおむね、道に迷うことも無くスムーズに各目的地に到着できました。

▶ 装備(ウェア)について：今回の装備は、二年前の3月に走った日本縦断第一ステージ(鹿児島→出雲)と同じウェアでした。

下は、パールイズミ製ウィンドブレークタイツ(5℃)に、同じくウィンターソックス。それにプラスして尻の部分に3Dパッドを装着しているモンベル製のサイクル ツーリングショーツを着用していました。このため、尻が痛くなることも少なくなりました！

上は、モンベル製のサイクルトレナージャケットをメインに。その下に速乾性のTシャツ＋ヒートテックの長袖の三枚重ねで。さらにアウターには、ウィンドウブレイカー＋反射ベストを着用していました。この装備で極端に寒いと感じることはありませんでした。温暖と思っていた紀伊半島で少し厚めの装備かと思いましたが、実際走ると風の影響で体感温度も低く感じ、ちょうど良いと思いました。速乾性のTシャツも年月が経つと、効果が期待出来なくなることがわかりました。定期的な買い替えが必要なようです。

▶ 装備(自転車)について：自転車の装備は、第一ステージから第三ステージまでとほぼ同じとなりました。

フロントには、小型のフロントバックを。リアには大型のサドルポーチを。加えてモンベル製のデイパックを背負ってのライディングとなりました。フロントバックには、地図、iPad、鍵、筆記用具などを。サドルポーチには、予備チューブ2本、携帯ツール、パンク修理セット、携帯用オイルなどを入れました。今回三日目の熊野→串本間で雨天走行となり、携帯用オイルはとても重宝しました。宿に着いて、ウエスでフレーム、ディーラーなどの泥を落とした後に、注油して翌日以降のライディングに備えました。おかげで快適なペタリングが出来ました。

デイパックには、着替え(パンツ×2枚、Tシャツ×1枚、ソックス×1枚、ジャージ/上着のみ、登山用の軽量スラックス、タオルなど)、雨具(山用のゴア製なのでこれが結構重い！)、雨用のシューズカバーなどを入れて走りました。今回も、このデイパックがやけに重く感じました。これ以上の日程のロングライドにはリアキャリアに小さめのパニアバックの装着の必要性を感じました。重いキャンピングでも、荷物をサイドバックに分散すると、思いのほかそれなりに

は走れます。（大げさに言えば、ロードバイクでのフル装備と変わらない。）やはり、デイパックはライディングに大きく影響していることがわかりました。特に着替えは重量がかさばります。

▶ 車両トラブルについて：幸運にも車両トラブルは全く有りませんでした。ロングライドにつきもののパンクも 500km 走破したにも関わらず全くありませんでした。

フロントタイヤは前回の日本縦断第二ステージの福井で交換したパナソニックのパセラ (700C×25C) をそのまま装着して走行しました。リアは、日本縦断第三ステージ(新潟→青森)の直前に交換したパセラ 25C を装着しての走行でした。廉価版で重いタイヤですが、耐パンク性の観点から走行性よりも重視した選択となりました。価格が安い分、ロングライドの直前に交換し、新品のタイヤでスタートできるのも魅力です。今回 500Km と距離も短めで、目立った摩耗は前後ともにありませんでした。

今回は持参しませんでした。やはりパークツールのタイヤブーツ(タイヤが裂けた場合などに、タイヤを裏面から貼るパッチ)は、お守り代わりに持っていきたい物です。実際、福井の越前海岸でのパンクでは、リアタイヤの一部が裂けてしまいました。

また、今回初日に夜間走行があり、夜間走行に堪えうる十分な明るさがあるフロントライトの必要性を感じました。また、夜間走行にはリアのテールランプをさらにもう一つ装着して、二灯の必要性も感じました。何せ鳥羽港から伊勢市内まで街灯も殆どない真っ暗な国道を走りました！反射ベストは多いに役立ったと思います。ブルベではないですが、これらの装備はトンネル走行にも有効です。

▶ 日程について：今回は、豊橋→大阪/岸和田(500km)を 5 日間で走破しました。当初は大阪駅までの走行を考えていましたが、大阪市内を走る気になれず、手前の岸和田をゴールとしました。毎回同じことの繰り返し（反省、反省）ですが、今回も事前に十分な乗り込みができず、二日目は峠越えの連続でかなり辛い思いをしました。100km/日と平均的な距離ですが、紀伊半島のアップダウン、雨、強風などを考えると、長い距離に感じました。紀伊半島は、事前の下調べでもアップダウンがあることは分かっていたましたが、海沿いの国道 42 号線は、風の影響を受け易く、特に今回「強風注意報」の発令されていた串本から和歌山までは大変でした。もう一日あれば、京都を目指すことも考えましたが、六日目の早朝のバスで帰京することになり、次回のお楽しみとしました。

▶ 今後の日本縦断の計画について：今回は今年 6 月に予定している日本縦断最終ステージ(第四ステージ)のテストランの意味もあり有りました。装備面、体調面など北海道ステージ向け、改善点が出てきました。最終ステージは、函館よりまずは宗谷岬への最短ルートを目指します。宗谷岬到着で、日本縦断 鹿児島→宗谷岬 走破は達成となります。（細かなことを言えば、鹿児島空港→佐多岬はまだ未走破です。）

宗谷岬からは日本縦断の「太平洋ルート」となります。（日本縦断往路編となります。）今までに、東京→京都、東京→いわき、豊橋→大阪は、走破していますので、日本縦断（日本海ルート/鹿児島→出雲→新潟→青森、函館→宗谷岬）が一区切りつければ、「太平洋ルート」はのんびり行きたいと思っています。

いよいよ日本縦断も最終ステージです。一昨年 3 月より開始して、2 年と 3 ヶ月で達成する？ 予定です！

どうなりますやら…。

■ 参考資料（地図）：

ライトマップル 中部道路地図 1:200,000 昭文社
ライトマップル 中国・四国道路地図 1:200,000 昭文社

■ 主なルート検索：

NAVITIME 自転車ルート検索 <http://www.navitime.co.jp/bicycle/>

■ 主な宿の予約手配：

じゃらん <http://www.jalan.net/>

■ 自転車の輸送方法：

往路 → 電車による輸行（東京→豊橋/東海道線鈍行。小田原→豊橋/3,670 円）

復路 → サイクリングヤマト便*（参考：大阪→東京（23 区以外）/2,296 円保険料 150 円込）但し、事前に別途利用券の購入が必要です。（2 回利用券→ 500 円＋税。よって 1 回の利用はその半額となります。）

（*）利用にあたり、日本縦断をスタートした一昨年より JCA の CJ+会員となりました。

これまで出雲、新潟、青森、京都、いわき、大阪より利用していますが、翌日には自宅に届いています。傷もほぼありませんでした。（サイクリングヤマト便ではなく、ヤマトの路線便で送っている方もいますので、あえて CJ+会員にならなくても大丈夫かもしれません。私の場合、引き受け出来ないと言われると困るので、CJ+会員になっています。）
ご興味のある方は、<http://www.j-cycling.org/ctag.html> をご参照下さい。

2019 年 日本縦断 第四(最終/北海道)ステージにつづく。

以上。